「いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン2030」（最終案）概要版

資　料　７　－　５
令和５年１２月１９日
区民文化部地域振興課

第1章 ビジョンの作成にあたって
【本編P1～P5】

策定の背景と目的

いたばし総合ボランティアセンター（以下、「ボラセン」）は、平成16年に策定された「『（仮称）いたばし総合ボランティアセンター」設置に関する基本構想（以下、「基本構想」）』に基づき、「区民・NPO法人・社協・板橋区」の四者協働により平成18年4月から設置・運営されてきた。

しかし、基本構想策定時から約20年経ち、ＳＤＧｓの視点等が重要視され、新たに連携すべき分野が増え、活動主体が多様化するなどのボラセンを取り巻く環境の変化が生じている。変化に対応しつつ、より多くの区民が活動に参画したり、活動の成果を地域に還元したりするためには、今後のボラセンが担うべき役割を再構築する必要があるため、新たに「いたばし総合ボランティアセンター運営ビジョン2030（以下、「ビジョン」）」を策定する。

基本構想とボラセンの今までの軌跡を最大限に生かしながら、変容する多様なニーズに対応できるように協議会でビジョンを策定し、基本構想からビジョンへ将来的な運営の方向性を移行していく。

ビジョンの期間

令和6年度を初年度とし、ビジョンの終期を国際目標であり活動の理念とも親和性が高い、ＳＤＧｓの最終年度の令和12年度に合わせ、7年間の計画としている。

ボランティア・市民活動を取り巻く社会の変化や動向

【東日本大震災の発生】
多くのボランティアが被災地の支援に駆けつけ、活発な活動が行われた。

【国連による持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の採択】
誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現をめざす。

【新型コロナウイルスの感染拡大による生活様式の変化】
対面の多い活動は、感染のリスクを念頭に置くことを余儀なくされた。

【システム化・オンライン化の進展】
ＳＮＳを通じた人々のつながり等を考慮した支援策の模索が求められてる。

これまでの成果や課題

【成果】
ボラセンの相談件数及び登録者数は年々増加しており、ボラセンを知っている人は51.4%となっている。

【課題】
ボラセンを円滑に運営し、区内の活動をさらに支援することや、更なる認知度の向上に向け、以下の課題の解決に努めていく必要がある。

① 地域の活動につなげる連携や関係構築が不足している
② 協働促進のためのルールやしくみが不足している
③ ボラセンを直接的に担う人材及び運営を支える人材が不足している
④ ボラセン利用者の活動拠点が不足している
⑤ ボラセンの認知度がまだ不足している

解決

第2章 ビジョンの基本的な考え方
【本編P6～P8】

◎ビジョンとなる、将来像・基本理念・組織戦略は以下のとおりである。

将来像
だれもが 地域とともに歩む 未来を創る
「いたばし総合ボランティアセンター」
～笑顔でバトンをつなぐ“ボラセン”～

◎誰一人取り残されず、活動の多様性を認め協働し、地域課題を解決できる環境の整備を図る。また、多様な主体が支援し合える関係性を構築し、次世代へと繋ぐ活動をボラセンが支援する。

基本理念
ネットワークの強化と 共創によって 人と人とをつなげ、
自主性に基づく ボランティア・市民活動を支援していく

◎ボラセンは、人と人・人と資源等のつながりを強化していきながら、地域の多様な人たちが未来を創るために何かを生み出す共創を行える環境を整備し、自主性に基づいて多様な活動を行う人たちが、世代を問わず関係性を構築していけるように支援していく。

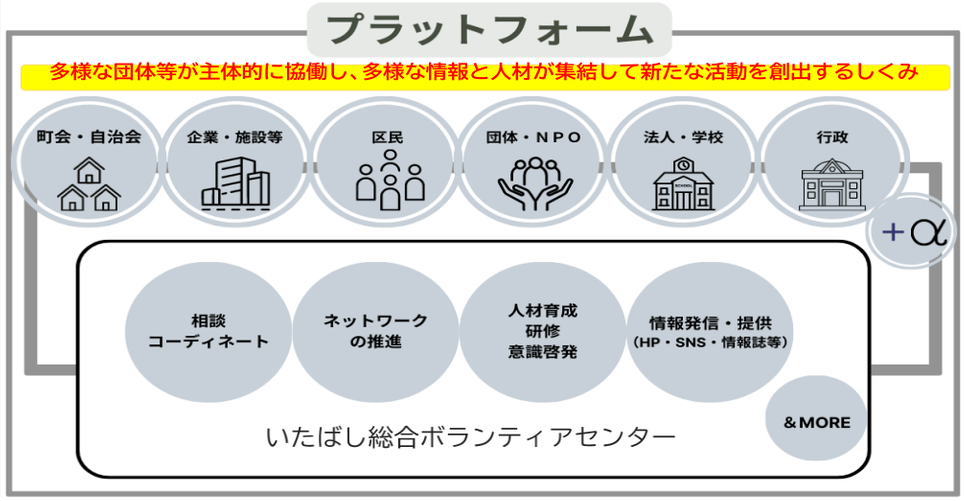
組織戦略
区民・地域団体・法人・板橋区で協働し、
いたばし総合ボランティアセンターの設置・運営を行う

◎多様な主体と協働できるよう、ボラセンの運営を行う。

第3章 今後の方向性
【本編P9～P15】

ビジョンの実現

プラットフォームの構築



ビジョンとなる**将来像・基本理念・組織戦略**を実現するために、「プラットフォームの構築」に向けた3つの方策を展開していく。

活動の核となるプラットフォームの構築を、ボラセンの抱える課題解決の糸口として、区内で活動する主体間の連携を今までよりも容易にし、地域での活動のすそ野を広げることで、ビジョンの実現に繋げていく。

プラットフォームに期待する効果

3つの方策を軸に、ボラセンがプラットフォームの構築を行っていくことで、新たな連携・協働が生まれ、行政・民間サービスだけでは対応できない課題の解決につながることが期待できる。

プラットフォーム構築のための方策

方策１：システム・事業等の整備 （課題①、②、③の解決策）	方策２：活動拠点の充実 （課題④の解決策）	方策３：多様な周知媒体の活用 （課題⑤の解決策）
プラットフォームを構築していくには、**各主体がつながるための環境づくり**が必要となる。 **システム・ルールの導入**によりプラットフォームのあり方を明確にすることで、連携・協働関係を構築しやすい土壌を整えることに加え、**既存の事業の整備**が必要になる。	活動支援にあたり、活動推進施策の協議検討の場や情報共有等の機能を備えた拠点を整備することが必要となる。 また**ブランチ機能**は**「情報収集が容易にでき、人と人とが出会う場所」**として地域活動を支えることが必要である。そのため、**「システムやオンライン利用によるしくみ」**と**「リアルに人と人とが出会い、つながれる場」**の２つの機能を併せ持つことが期待される。	活動に興味のある区民が、ボラセンを活用し、活動参加につながるためには、ボラセンを知ってもらうことが必須となる。 周知内容はやさしい日本語の使用等、誰にでも容易な内容であることが必要である。 昨今、情報の周知媒体は多様化しており、ターゲット層によって効果的な周知媒体は異なる。そのため、多様な周知媒体（デジタル・紙・連携先）を効率的に利用し、ボラセンを周知していくことが重要である。